



むかしむかし  
「世界で一番美しい  
心を持った一族」と

「世界で一番悪い  
心を持った一族が  
ありました」

美しい心を持った一族の祖先は  
黒壇の様に黒い髪に  
雪の様に白い肌、燃える薔薇の様に  
赤い唇を持った白雪姫

悪い心を持った一族の祖先は  
かつて白雪姫に毒を盛った  
嫉妬深い継母が密かに  
他所にもうけた隠し子

縁あって  
それぞれを  
祖先に持つ  
二人が結ばれ

おとぎの国に  
悠久の平穏が  
訪れたかの様に  
思えましたが…

女王陛下が  
ご乱心だ

110  
#



ははははは  
ははははは  
はは

世界で一番  
美しい一族も  
これで終わり…  
他愛もない!!



この世に美は  
2つと要らぬ

やはり私こそが  
世界で一番  
美しいのよオ



まさか余の妻が  
悪しき心に  
飲み込まれて  
しまうとは…

白雪王(43)  
マルガリーテス・フォン・ヴァルデック



許してくれ…  
マルグリット…



何としても  
姫様と陛下を  
お護りしろオ

うわあああ

父上：  
もう時間が  
ありません!!

いいえ：  
父上のせいでは  
ありませんわ：

母上は完全に  
正気を失って  
しまいました

このままでは  
一族全員が  
抹殺されて  
しまいます：

15代目白雪姫(17)  
マルグリット・フォン・ヴァルデック

これを...

毒



複数人でいると  
目立って  
しまいます…



しかしお前は  
どうするのだ…  
共に逃げぬのか



これを食べれば  
一時的に  
仮死状態になり

万が一  
母上に見つかったても  
殺されずに済みます



しやん!!!



必要な物は  
船に積んで  
おきましたから  
数日は持つでしょう

ボロを纏って  
いれば誰も  
父上だと  
気づかない筈

さあ  
父上も早く…





いたぞ  
雪白だ!!

我が一族の…

為に……

捕らえろ



父上…必ず生きて…  
生き延びて  
下さいませ…



マルグ  
リット

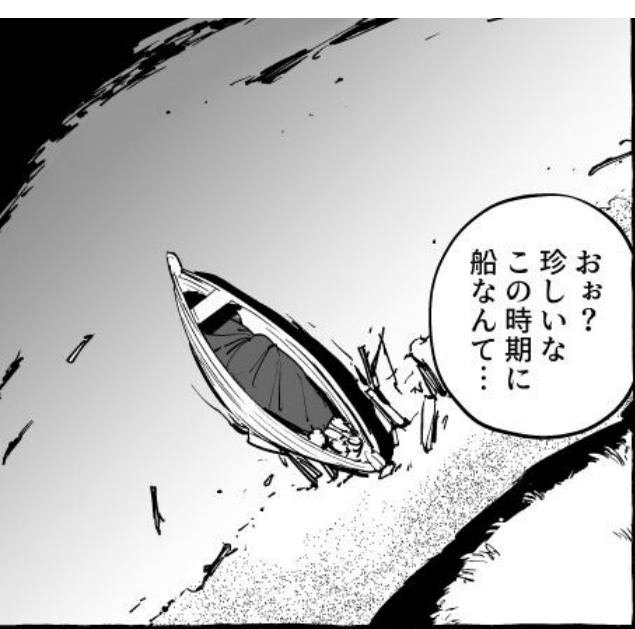


林檎の麻痺毒は  
すぐに王様の  
神経を侵しました

虚ろいゆく  
意識の中で観た  
居城が燃え盛る姿を  
背景に…

王様を載せた小舟は  
どこまでも  
流れてゆきました……





おお？  
珍しいな  
この時期に  
船なんて…



つい欲望を  
叫んじまった

いっけね  
魚が逃げちまう



ちよいと  
お邪魔  
しますよ  
よッくら  
セツクス



ズー…



眩しッ



何だこの  
輝きは…!?

お…  
お前ら  
ドえらい  
モン  
見つけた





突然の  
美しい来訪客の前に  
小人達は全員が全員  
同じ事を考えて  
いました

七人の男達は  
この島で暮らす  
唯一の住人でした

島は長らく無人状態で  
年に一度来る商人以外  
人間の往来がありません

…心臓は  
動いてる  
みてーだゾ

生存確認  
ヒヤッホー

ワァァァ

わく綺麗な  
人だなあ

いっ  
息して  
なくね?

女? 男?

いやッ何も  
釣れないけど  
とにかく来て!!

何やカジキ  
釣れたんか?

プ

こんな  
若いのに  
気の毒じゃの…

し…  
チャンス

デユフ…

まともで  
見たわ

おっばい  
無いし  
男やろ

ワ



お：おめーこそ  
勃起してるべ：

あッオメー今  
セックスしたい  
って思ったべ！?

ザザー...

うるせえ  
童貞  
ころすぞ

お前も  
童貞やろ

オマンコ  
したいで  
ござる

そう  
小人達は全員  
童貞だったので



『セックスしたい』



林檎に含まれた毒の  
副作用で若返った王様は  
それはそれは美しい姿を  
していました

これでは  
妃が嫉妬するのにも  
無理がありません

その美貌に童貞達の  
長年蓄積された劣情は  
ひどく掻き立てられるの  
でした...



き……キツス  
したら……目エ  
覚めんじやね？

リーダー格の  
小人「オイラ」が  
言いました

ホー♡

真っ白で  
キレイな  
肌やなあ…  
髪の毛も  
アゲツヤで

それにあの唇  
紅引いてる  
みたいだ…



「オイ」この発言で  
小人達の理性の箍は  
外れてしまいました

そんな状況とは  
知らず王様は  
眠り続けています

ええ匂い♡

おっ  
高そーな  
指輪

フゴッ  
芳ばしい  
かほりッ♡

脚も  
トゥルッ  
トゥルッ♡

しかし何で  
こんなポロ布で  
女装してんだべ？

きつと悪い主人に  
売り飛ばされたん  
じゃ…



ゴワッ

ちよつと触る  
くらいなら…  
なあ？

ま……まあ  
こんだけべつびんなら  
女にちんぽ生えてる様な  
もんだべや…  
ちよつと違っ  
た…

ウオオ  
女モンの  
下着じゃあ

ほっ

ずるいぞ  
オメー  
しょう  
小生も…  
そんなら  
ワイも  
ボクチン  
も



生オナホと  
初キッス♡

大きくなったら  
父と  
結婚する♡

まるで幼き頃の  
マルグリットを  
彷彿とさせる...





な…何なのだ  
この恥知らずな  
無法者達は…

んむッ  
おっぱい♡

あ  
気持ちいッ♡

余の身体は  
一体どうなっ  
ている…!?

く……う…  
林檎の毒が  
まだ残って…ッ  
自由が効かぬ…

射精すよッ  
喉マンコに♡

おおッ♡  
射精するッ♡

熱い……ッ

おっぱい♡







いっしょに  
いっしょに

感じる  
など…ッ♡

痴れ者めら  
があ…ッ♡

ぎゅ  
うわぁ



本ツツ当に  
申し訳  
ありません  
でした

もう良い……



余の美貌を前に  
うっかり魔が  
差したのであらう……



まさか  
王様だった  
なんてよ……  
何かやたら  
態度デケエと  
思ったべよ  
つーか  
美形って自覚  
あんのな……

ね……ねえ王様……  
ボクチン達  
まさか死刑……？

もう余に  
そんな権力は  
無い……



いくら肉体が  
若返ったとは  
いえ……  
もはや余は  
一国の王ですら  
無いのだ……



く……  
妃の心変わりも  
見抜けず……

我が娘……  
マルグリットの  
安否すら  
わからぬ始末……  
父としても  
非力……!!





もう余の  
存在価値など…



安心せえよ  
王様!!

ココが  
どこだか  
思い出せ  
アンタの国から  
遠く離れた  
無人島だべ?



カミさんだって  
こんな辺鄙な島に  
王様がいるなんて  
思わねえだろフツ!

むしろ  
生きてるだけで  
ヒヤッホー  
だべや

……ッ

心から  
感謝する…



今は精のつくもん  
たらふく食ってよ

落ち着いたら  
オイラ達と一緒に  
姫様探しに行こうや

んだんだ



最初は少し戸惑っていたが王様でしたが

彼らの  
おらかな人柄に  
次第に打ち解けて  
いきました…



小人達は  
ささやかながら  
王様の為に  
歓迎パーティーを  
催しました



何をするか  
無礼者…ッ

の…ノ…バ…ン…テ  
寝る人間が  
実在するなんて…

な…ッ



何が望みだ……



王様は一時的にでもこの様な下賤な者に心から感謝した事を後悔しました

俗物共がア……



貴様……ッ  
何のつもりだ  
寝込みを襲う  
など……!!

甘いよね王様  
世の中  
ギブ&テイクよ

オイラ達基本  
資本主義なんで



下衆め……  
恥を知れ!!



オイラもう  
こんな  
なっちゃった



王様の刃女♡

おお~~~~ツツ  
美人に睨まれると  
堪らんツ♡



これなら王様も  
気持ちよく  
なれるべ♥

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ

な...なぜ余が  
こんな屈辱的な...



ぐ.....ッ  
矮人の分際で  
見事な逸物!

コッ!



あ イイ事  
考えた!

!?



太すぎて...  
余の口に収まり  
きらぬ...ッ

王様ちゃんぽも  
綺麗な形  
してるなあ  
おっだんだん  
膨張してきた  
べ♥

お!!

へッ  
へッ  
へッ

しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん  
しゅん



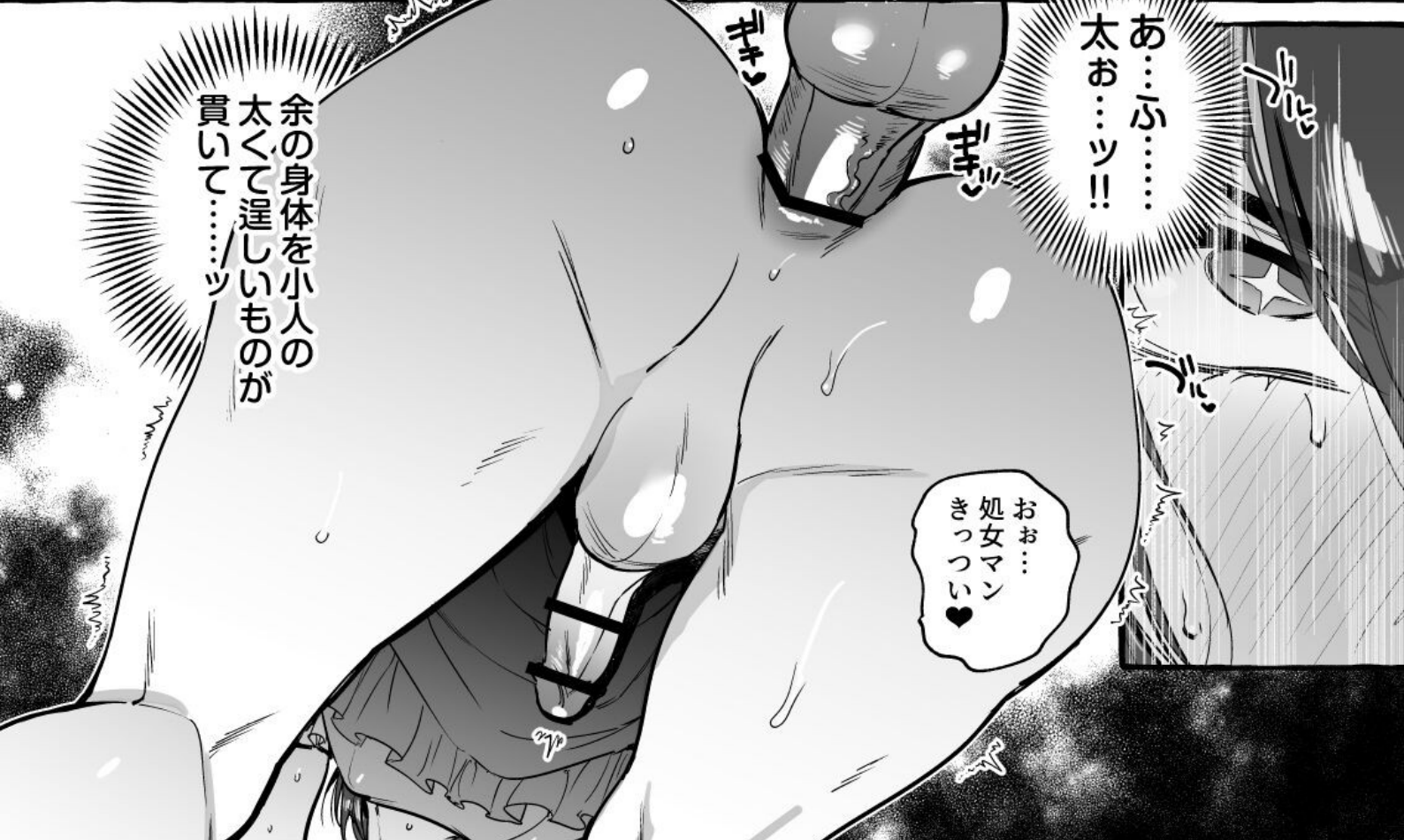
王様の処女  
一番乗りイ♡

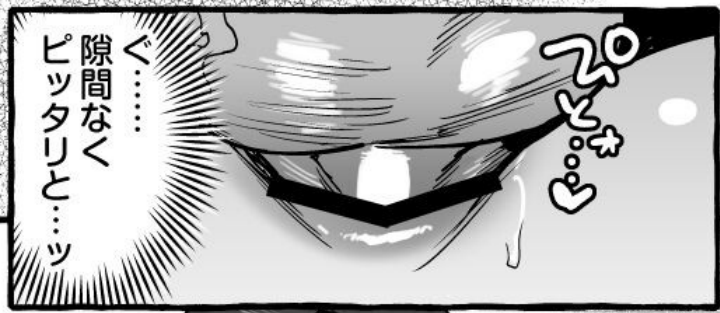
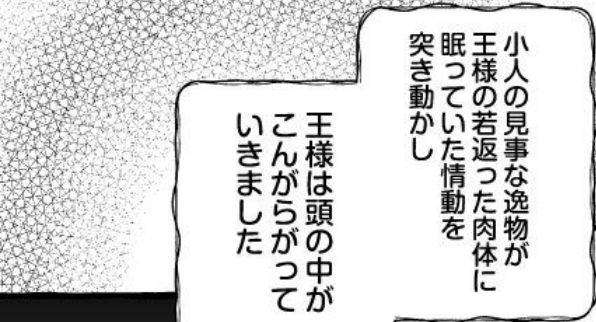


あ…ふ…  
太お…ツ!!

余の身体を小人の  
太くて逞しいものが  
貫いて…ツ

おお…  
処女マン  
きっつい♡







小人の激しい杭打ちは  
すっかり王様の  
理性を吹き飛ばして  
しまうものでした

メス筋が  
キュウキュウ  
絞まって…  
さすが  
王様の  
オマンコッ

腰振り  
止まんねえ  
べ

少しは抵抗しましたが  
小人の自家発電によって  
鍛え上げられた男性器に  
身悶えするばかりです



もはや喘ぎ声を  
抑える事も  
ままなりません

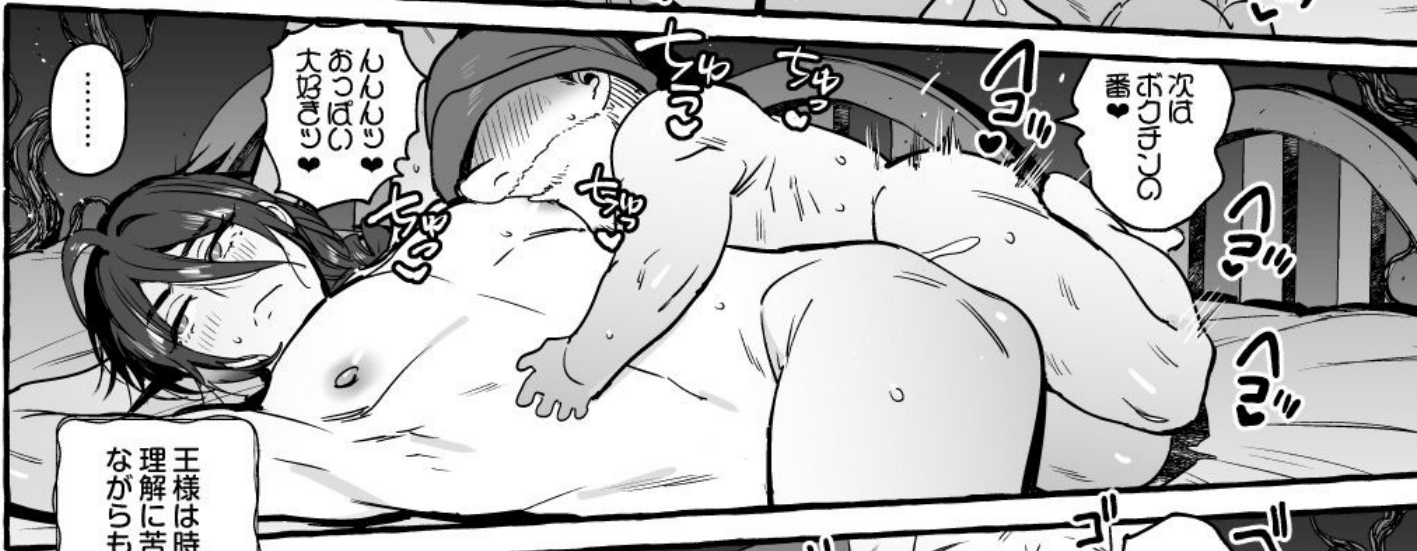
こんな感覚  
知らない…ッ

王様あ  
射精するよッ

変になる

あ  
イクッ









すっかり島の生活にも馴染んできた頃王様は思いました

余がこの島に流れ着いてからどれ程の時間が経ったのだ…



安全だからといって何時までもこの島に留まってはもらね

マルグリットを探しに行かなければ…



自慢の白い肌がこんなに焼けてしまった…



これが最後の晩餐になるが…

皆が余に良くしてくれた恩は決して忘れない…



皆の者…聴いて欲しい

余は明日この島を発とうと思う

王様の決心が揺るがない事を知った小人達は悲しみを抑えつつも特製デザートを振る舞う事にしました



小生アレもってこい!! とっておきだ



デユフ…了解

家庭持ちはしょうがねーや…  
王様がそう言うなら…  
そいつあ…寂しくなるな…  
オイラちよつと泣きそう  
いつかこんな日が来ると思ってたんじゃない…

今宵は宴じゃあ

余がこれまで食した中で一番美味であるぞ…

これには王様もニツコリです

コオ

気のせいかな…視界も歪んで…

あ…れ…

あーい…



は……ッ

……絶対  
他所へなんか  
行かせるもんか  
……

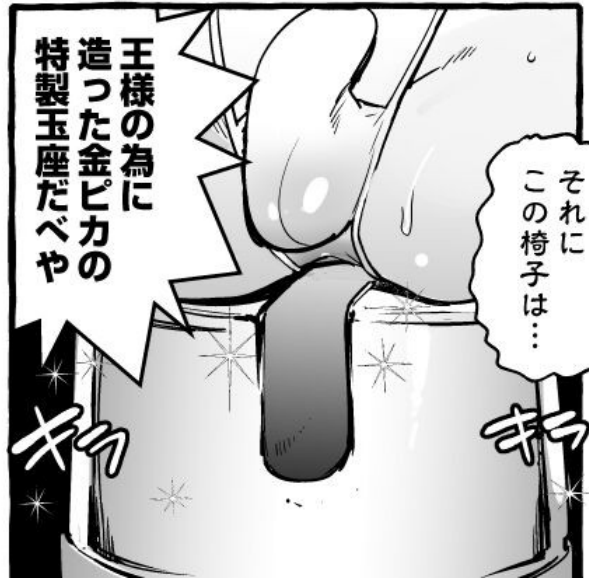
せっかく  
オイラ達の  
生オナホ……

う……

むほ  
似合うやん  
王様

仕度  
イ一様

もうちょっと  
フリフリが  
ついたヤツの  
方が小生は……



王様の為に  
造った金ピカの  
特製玉座だべや

それに  
この椅子は……



なッ何なのだ！？  
この突極に無駄なき  
布面積の衣服は……





!?

触られた  
だけで……!?



……貴様達……



余に何か  
したな……?



あッ……♡



ちよい

ごめんで王様  
オイラ達  
王様の為にと  
思つて……



ち……さ……  
来……る……

この島にしか群生しない  
菌糸類から作り出す  
小人の媚薬は高純度で  
とても貴重なもの  
だったので……

一年に一度だけ  
島にやってくる  
商人と高額取引  
される程に

とうの昔に脈脈が  
枯渇したこの島で  
彼等の主な収益源は  
媚薬でした



ワイッ

デユフ♡  
小生のとおき  
効いてきたで  
ござるな……♡

ふんふん!

常人であれば身体に  
触れられただけで  
たちまち絶頂して  
しまつてしまう

形クツキリ  
でやらしい  
なあ♡

自分らでは  
滅多に使わん  
からの

さ…触るな  
…あツ♡

触るな♡

触れられた所  
全部…

燃える様に  
熱い……ツ♡

んっ♡王様の  
腋マンコツ♡

う……ん……♡

王様の竿  
ギンギン  
だべや♡



おほ♡

おほ♡王様の  
メスイキ♡

おほ♡王様の  
メスイキ♡



……ツツ  
イッてる…♡

触れられた  
だけなのに  
……ツツ

……もし……  
こんな状態で  
挿入されたら……

ズ…♡

どうなって  
しまうのだ——

おほ♡



おっ!!

一突き  
される毎に  
イッてるッ♥

まだ……

イッてる  
からあ♥

おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

えへ♥  
おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!





はっ

駄目だ...  
もっ...

はっ

はっ

ちんぽで糸を  
楽しませよッ

も...もっと  
突き上げて

こやしらの  
逸物の事しか  
考えられぬッ

はっ  
はっ  
はっ

はっ

はっ

余と  
貴様達だけの  
楽園を

王様めもっ  
射精するよッ

はっ



この世界のどこに  
快楽を簡単に  
手放せる者が  
いるでしょうか

はっ  
はっ  
はっ

はっ

王様ずっと  
イキっぱなし

はっ  
はっ

薬の効果も相まって  
彼らから与えられる  
無償の愛の大きさに  
感動すら覚えまして

はっ  
はっ



建  
国  
す  
る  
ッ  
♡

ッ  
♡

ッ  
♡

ッ  
♡

な…何だあの  
神をも恐れぬ  
破廉恥な  
連中は…



父上……

申し上げます  
マルグリット様

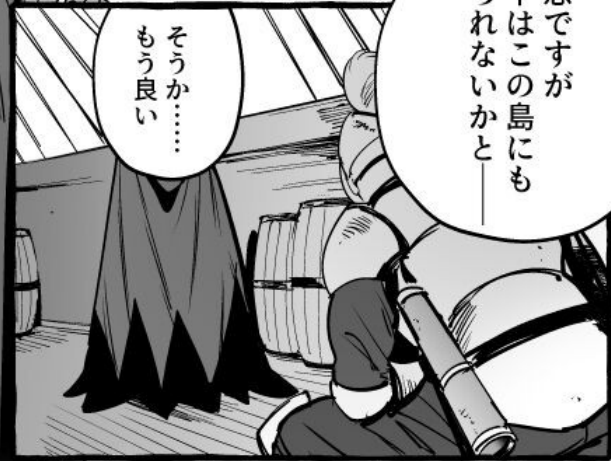
島全体を  
調査して  
参りましたが

この島には矮人七名と  
淫蕩に耽っている  
恥知らずな人間が一名  
暮らしているだけで  
他の者は見当たりません



残念ですが  
陛下はこの島にも  
おられないかと

そうか……  
もう良い



何処に……

帆を上げよ  
出航する

こうして  
マルグリットは  
去ってしまっ  
ましたが…

王様と野郎共は  
いつまでも幸せに  
暮らしましたとさ

おしまい

